



中丹高次脳機能障害者と家族の会

“さくらの会”便り

No108 2017.7.31

発行責任者
会長 田中 明
編集責任者
事務局長 上原 栄
TEL.0773-22-7859

—リラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えられるところ—

学習会 いろんな事例を解説 交流会 「つづかれて書けるようになった」

7月9日、ハピネス福知山で高次脳機能障害リハビリテーション学習・交流会が、主催者（福知山市・さくらの会）を代表して大橋一夫福知山市長の挨拶で開会しました。

本多先生の講演会では、「高次脳機能障害者について グループ訓練を通して」と題して、昨年4月から12月まで行われた訓練の成果も含め、高次脳機能障害について講演されました。

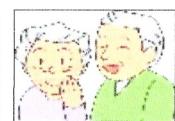
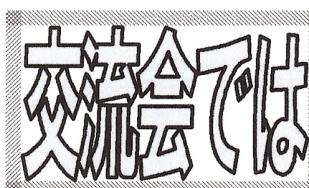


高次脳機能障害は誰にでも起こりうる脳の損傷である。よくある症状として、長時間座っていることができない。注意・集中力がない。一つのことにこだわりやすい。今、自分がいる場所が分からぬなどがある。代表する高次脳機能障害として、記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行

動障害がある。高次脳機能障害者の社会復帰における重要なポイントとして、

- ①本人が障害に気づくことがすくない
- ②周囲に理解されにくい
- ③複数の症状が重複し課題は個別性が高い
- ④社会活動場面で出現しやすい。対応として、自己認識を高めるリハビリや、職場や地域の方に理解してもらうこと、個々に課題を明確にし、個別に即した対応を考え、実際の場面で訓練し、その場で修正を促す必要がある。周りの私たちがどのように理解し、対処すればいいのか等をわかりやすく話されました。

また、グループ訓練を受けられた山添さんがパネラーとして登場し、本多先生からの質問形式で進められグループ訓練を通しての現状を話されました。



交流会は、自己紹介から始まり、当事者、家族、行政関係、医療関係の方も含め30名の参加で開かれました。本多先生から「小遣い帳を付けるようになった。通帳をじぶんで作ってきて少しづつ貯金するようになったと報告を受けている。」と話が

ありました。

グループ訓練を受けた当事者から、「自分は出来ると思って高い所から見ていたが、色々な事があって悩んだ末、プライドを無にしてやれることをやろうとして京都ジョブパークに行くようになった」

初めて参加された方からは、「子供が事故後1年半たつ。進路で悩んでいる。どこに相談したらいいかわからない。同じような状況の方がおられたら話を聞きたい」と発言があり、体験された家族からは、「無理をすると登校拒否になったので無理はできないなと思う。」又、「福祉事業所で働いている息子が、今日の学習・交流会への声かけに応え、スタッフが参加してもらったことがうれしい」と発言されました。

交流会後も、家族から病院専門職や行政の方に今後の対応について相談がありました。

JR財團から所感が

JR西日本あんしん社会財団から、昨年のグループ訓練に対して所感が届きましたので報告します。

『JR西日本あんしん社会財団の所感』

確実に増加している高次脳機能障害の方々に対して多くの専門家の支援や行政の理解を得て、このようなグループ訓練を実施する活動は極めて貴重です。

ラジオ番組でも、活動が紹介され、本グループ訓練によって参加者の自己認識の向

上や活動範囲
及び自立度の
向上などの確
実な成果が得
られていると
評価できます。

「去年こんなに暑かったかな?」と思わず口にでてきました。

▼交流会に30名の参加があり大変うれしかった。

▼当事者、家族の方の声が行政や、セラピストの方々に直に届き有意義であったと思う。

▼昨年グループ訓練に参加した当事者が少しずつ、前に進んでいる報告がされたことがうれしかった。

▼当事者が学習・交流会への参加の呼びかけをして、一緒に参加されました。

▼ハローワークへ行って仕事を紹介してもらった。出来ることをやろうと思って、京都ジョブパークで紹介してもらっている。それぞれが自己認識をして、まず1歩まえに進んでいることがうれしかった。

▼当事者も家族も大変な思いをしている中で、自分の障害に気づき、自己認識が高まった成果だと思いました。グループ訓練の成果が出てきていると確信しました。



「平成29年度ふれあい福祉フェスタ」への参加の呼びかけがありましたが、「さくらの会」は、作品を作る計画もなく、今年は参加を見送ります。

平成29年度ふれあい福祉フェスタは、12月17日（日曜日）に厚生会館で開かれます。

【編集後記】